



News Release

2026 年 10 月 29 日
N I T E（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
製品安全センター（東京）

適切な距離感覚、知っていますか？

～暖房器具は可燃物との距離を確保して火災を防ぎましょう～

1. 関東甲信越地方の暖房器具の製品事故

（１）年別事故発生件数と被害状況

2021年から2025年の間にNITE（ナイト）が収集した製品事故情報※¹において、関東甲信越地方の1都9県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県）で発生した、主な暖房器具※²の製品事故は199件ありました。暖房器具の製品事故について、関東甲信越の都県別の年別事故発生件数を表1、被害状況別事故発生件数を表2、原因区分別事故発生件数を表3に示します。

※1 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

※2 石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター、電気カーペット、電気こたつ

表1. 年別事故発生件数

		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計
事故発生年	2021年			2	15	8	12	8	4	1	1	51
	(内数) 火災事故			(2)	(11)	(5)	(8)	(7)	(4)	(0)	(1)	(38)
	2022年	2		1	5	10	8	10	1		1	38
	(内数) 火災事故	(2)		(1)	(4)	(9)	(7)	(9)	(1)		(1)	(34)
	2023年	2		3	8	6	10	8	2	2		41
	(内数) 火災事故	(2)		(3)	(8)	(5)	(9)	(8)	(2)	(1)		(38)
	2024年	1	2	1	7	3	13	9	4	2	3	45
	(内数) 火災事故	(1)	(2)	(1)	(7)	(3)	(12)	(7)	(4)	(2)	(3)	(42)
	2025年	1	1	1	4	2	6	6	1		2	24
	(内数) 火災事故	(1)	(1)	(1)	(4)	(2)	(5)	(6)	(1)		(2)	(23)
合計		6	3	8	39	29	49	41	12	5	7	199
(内数) 火災事故		(6)	(3)	(8)	(34)	(24)	(41)	(37)	(12)	(3)	(7)	(175)



表 2. 被害状況別事故発生件数

			茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計
被害状況	人的被害	死亡			1	5	6		2		1		15
		(内数)火災事故			(1)	(5)	(6)		(2)		(1)		(15)
		重傷	1		1			4	1		1		8
		(内数)火災事故	(1)		(1)			(2)	(1)		(0)		(5)
		軽傷			1	1	4	4	4	4	1	2	21
		(内数)火災事故			(1)	(1)	(4)	(4)	(4)	(4)	(1)	(2)	(21)
	物的被害	拡大被害	4	3	3	27	16	24	26	7	1	3	114
		(内数)火災事故	(4)	(3)	(3)	(23)	(13)	(23)	(25)	(7)	(1)	(3)	(105)
		製品破損	1		1	6	3	17	8	1	1	2	40
		(内数)火災事故	(1)		(1)	(5)	(1)	(12)	(5)	(1)	(0)	(2)	(28)
被害なし				1								1	
(内数)火災事故				(1)								(1)	
合計			6	3	8	39	29	49	41	12	5	7	199
(内数)火災事故			(6)	(3)	(8)	(34)	(24)	(41)	(37)	(12)	(3)	(7)	(175)

表 3. 原因区分別事故発生件数

区分	事故原因区分説明	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	合計
製品に起因する事故	A 設計、製造又は表示等に問題があったもの				5	5	7	9	1	1		28
	B 製品および使い方に問題があったもの				1		1		2			4
	C 経年劣化によるもの				2	1	3	2				8
	G 3 製品起因であるが、その原因が不明のもの	1		1	5	2	2	2	1			14
	小計	1	0	1	13	8	13	13	4	1	0	54
製品に起因しない事故	D 施工、修理又は輸送等に問題があったもの				1							1
	E 誤使用や不注意によるもの			2	3	3	7	3				18
	F その他製品に起因しないもの	1	3	2	9	6	8	8	3	3	3	46
	小計	1	3	4	13	9	15	11	3	3	3	65
その他	G 原因不明なもの	4		2	12	10	14	16	4	1	2	65
	H 調査中のもの			1	1	2	7	1	1		2	15
	小計	4	0	3	13	12	21	17	5	1	4	80
合計		6	3	8	39	29	49	41	12	5	7	199



(2) 関東甲信越地方において発生した事故の事例

- ① 電気ファンヒーターの事故事例（ほこりにより吸気が不十分となり、ヒーターが過熱して、外郭樹脂が溶融した事故）

2022年1月、東京都、製品破損

（事故内容）

電気ファンヒーターの一部が溶融した。

（事故原因）

多量のほこりが吸気口に付着して吸気が不十分となったため、風量不足によりヒーター近傍の外郭樹脂が過熱し、溶融したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「開口部をふさいだ状態で本製品を使用しない。本体吸気口にたまった異物はやわらかいブラシ等で取り除く。」旨、記載されている。

- ② 電気ストーブの事故事例（ヒーター面の前に可燃物が置かれたことにより発火した事故）

2023年12月、埼玉県、拡大被害

（事故内容）

電気ストーブを使用中、異音がしたため確認すると、電気ストーブ及び周辺を焼損する火災が発生していた。

（事故原因）

ヒーター面の前にクッションが置かれていたため、ヒーターの輻射熱によりクッションが過熱されて、出火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、火災の原因になるとして、「カーテン、布団、毛布等の燃えやすいものの近くで使用しない。」「ヒーター面から前面障害物までの距離は1m以上あける。」旨、記載されている。

（本件に関する問い合わせ先）

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 製品安全センター 事故調査課

担当者：矢代，北村，赤野

電話：03-3481-1820